

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	袖ヶ浦市立昭和小学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和2年度実施の結果では、本校職員の分析から「条件に合わせて文章を要約する問題の正答率が低く、設問から必要な情報の一部しか見つけることができない児童が多い。」という実態が把握できた。本校の児童は基礎基本については理解が高いものの、活用・表現については練習が必要と考えられる。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○仮説を「国語科の学習において、『目的や意図に応じて、自分の考えを明確にして書く』学習活動を位置づけることで、読む能力及び書く能力が向上し、思考力・表現力を高めることができるであろう。」とし、「書く」活動を中心に据えて授業改善を図っていくこととした。

3. 具体的な実践

○①全国学力・学習状況調査の問題や結果の分析

②継続した「書く活動」の検討・実践

「書く活動」を年間通して継続的に行い、思考力・判断力・表現力につなげていく。

③研究体制の見直し・改善

<授業研究は「書く」単元にしぼる> <部会の構成を見直し、深く効率よく研究を進める>

④授業研究（年間2回、全員授業）

学年で教材研究。「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の指導過程を実践。

4. 成果

○令和4年度の全国学調では「書くこと」は県平均を上回り、他の分野より正答率が高かった。

○児童の実態や課題を把握し、授業改善への方向性が明確になった。～「書く活動」中心の授業作り・「感動」のある、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムに則った授業の流れで、児童の思考力育成～

○授業研究では、学年で教材研究をしたことで、系統性を考えて、より深く授業改善に取り組むことができた。

○国語TTによって、個に応じたきめ細かな指導ができた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 碓山 智生）

○学年での教材研究や単元で目指す資質・能力を明確にした言語活動の設定によって、児童への手立てをより具体的に設定して授業実践を行っていた。

○「書く」活動を継続していることで、児童がこれまでに身につけてきた力、これから身に付けさせたい力を把握して授業実践に取り組み、「書く」能力の向上につなげることができた。